

「終わりよければ」いせの会 会報47

平成24年7月3日版

電話 05966・63・52266
ファクス 05966・63・52366

6月13日(水) 例会の記録

縁(えにし)の家 19時〜21時

出席者6名(男性3名、女性3名)出席
しました。

いせの会のシンポジウムへの基本姿勢

- 会の基調的な考え※を最初に提示する
 - 1 胃瘦が良いか悪いかの設定にしない
 - 2 個々の例として、必要と根拠を考える
 - 3 落ち着いた相談の時間や配慮はあるか
 - 4 受けない場合の代替はどうなるのか
 - 5 受けた場合でも中止や離脱は可能か
 - 6 食べるための努力はどう続けるか
 - 7 どこに相談の場を求めるか
- 各シンポジストには、15分で基調への考えをまとめて下さい。実例をあげる場合は、事前に資料の提供を希望
- 山梨の歯科衛生士の牛山京子さんの発言は30分。当事者に残された大切な機能回復の道が口腔ケア。食べられない時の入院・在宅を結び多様なコミュニケーション形成の取り組みを聴く。

※ 当会の基調的な考え

伊勢市の高齢化率も25%を超え、超高齢社会はさらに進行します。最期まで自らの口でたべる事ができれば幸いですが、現実には食べられなくなり、誤嚥性肺炎などで発熱すると、まずは入院という形になります。自力で食べるのが難しく自宅へ戻りにくい状況では、早期退院のため「できることは胃瘦しかない」と勧められます。決めたものの後になり「こんなことなら希望しなかったのに」と考えるケースも少なくないと思います。

当事者である本人や家族が「人工的に水分と栄養を補給する方法」の全容を知り、自らの意思に基づいた決定していくためには、市民と医療者が互いに考えなければいけません。食べられなくなったらどのように相談のプロセスを進めるか、改めて考えてみようと思います。また、水分や栄養を補給する方法を考える以上に、当事者が口の中の状態を改善する事を忘れてはなりません。入院や在宅・地域で、口腔ケアを考えて行く試みを、山梨県の先例を聞きつつ、考えてゆこうと思います。

シンポジウムへの進行方法

- 前半は1時間半(13時半〜15時)
- 全体討議は1時間弱(15時〜16時)
- 後半で具体的な悩みを論議。司会が、病院・介護関係者と市民との率直な意見交換をファシリテートする。
- 老年医学会が発表した「態度表明」では、胃瘦の差し控えや中止も可能。
- 同医学会のガイドラインも紹介する。
- 世間の「餓死させるのか」という議論や道義的責任、法的責任にも言及。

- 山梨での取り組みを、改めて牛山さんに聴きます。病院と在宅をつなぐこと。胃瘦を外す試みもある。日本自立支援学会の「胃瘦から常食化」の内容とは、実際にどのようなことをしているのか参加の主体は市民です。わかりやすい言葉や丁寧な論議を心がけたい。

NHK厚生文化事業団中部支局 主催
在宅ホスピス「いのちをつなぐ音楽の夜」
松田隆行さん 津軽三味線ライブ
7月9日(月)午後6時半 縁の家 無料
40分ほど、よろしければ、ご参加ください
(準備のため、ご連絡頂ければ助かります)

「終わりよければ」いせの会

〒516-0805 伊勢市御園町高向927 縁えにしの家
Tel 0596-63-5226 Fax 0596-63-5236
mail homecare@amigo2.ne.jp
ホームページ <http://amigo2.ne.jp/~homecare/>

次回の定例懇談会 7月11日(水)
19時〜21時 縁の家

さらに、準備作業を進めましょうね。